

令和七年度 市制施行七十周年記念・第三十八回夕暮祭短歌大会入賞歌

秦野市長賞

雲見上げ足を揃えて数センチ空に近づく二歳のジャンプ

神奈川県横須賀市

(敬称略)

久保 信之

秦野市教育委員会教育長賞

夕焼けが映画みたいで少しだけ大人になつてもいいと思える

神奈川県横浜市

猪野田 涼奈

秦野中ロータリークラブ会長賞

青空に呼びかけてゐる喃語の児 雲と沸きたつ言葉を待たむ

東京都町田市

塩澤 珠江

市制施行七十周年記念特別賞

ぱとり雨パンサラッサの大洋にうねり轟く波の群青

新潟県三条市

常石 一貴

山田吉郎選者賞

愛すべきわが子の好きに併走し宇宙、恐竜、学ぶ楽しさ
れいだ

岡山県岡山市

伊藤 理奈

寺尾登志子選者賞

言葉おそき孫のつぶやく「きれい」の一語 そだね花火はほんとにき

鳥取県米子市

狩野 美優

佳作

王女様になるのと笑う子を抱いてそだよここが君の王国

東京都武蔵野市

内村 佳保

落葉が郵便局に吹き込んで風も便りを出したがつて

神奈川県横浜市

永井 穂果

お日様のようなあの子にはなれなくて黒南風の音を聞いた放課後

広島県福山市

浜田 光夫

手ぬぐひを首に垂らしてノート取る夜学の講義は夕凪の中

神奈川県厚木市

大野 英子

車窓から小さき手伸ばしじゃんけんし勝つたばあの手振るを見送る

茨城県那珂郡東海村

五十嵐 裕治

旅好きの父の遺した書き込みにゴトンと回る胸の動輪

愛知県名古屋市

小林 望

幾たびの夏越え来しや好々爺市に並べし泥の蓮の根

京都府南丹市

中川 文和

終戦日来れば抑留語り居し父逝き妻と芋づるを食む

長野県松本市

篠崎 俊二

読書家のあなたがくれた司書の道本の狭間でいつか会いたい

神奈川県厚木市

横内 柚樹

うすもえぎのやま肌に白き桜咲き仏果連山ふくらみを増す

滋賀県大津市

船岡 房公

抉られしやうな瘢痕腹にある父は言葉を濁して逝けり

長野県松本市

菊川 涼佳

すっぴんとサンダルで歩く夕方はわたしがここにいていい証拠

神奈川県厚木市

柳川 維

子どもらと下山途中のにわか雨弟庇い兄は離れず

神奈川県秦野市

神崎 妙子

青春を力いっぱい詰め込んで破裂しそうな生徒番号

神奈川県秦野市

植草 結良

天災に「負けどられん」と不死鳥の蒔絵のやうな能登の夕暮れ

群馬県前橋市

外丸 幸子

伊豆にある恋人岬へ制服を引っ張ってでも君を連れてく

神奈川県横浜市

中西 董

祖母の手に引かれて上った杣道は蒼い海見る夏の坂道

神奈川県秦野市

町田 友美

友真似て家を実家と呼ぶ娘の花びら一枚分の巣立ちよ

千葉県浦安市

林 英美子

八十歳を「この子」と呼びて百歳の義母は今でも母親である

石原 次子